

題目 不確実性下の意思決定に関する行動心理学的及び行動経済学的アプローチ

氏名 友納 壮紀

指導教官 高橋 泰城

時間割引とは、時間が経過することにより主観的な価値が割り引かれてしまうことである。割引率が大きいと、将来の価値が今の価値に比べて大きく減少する。つまり、割引率が大きい人は今の効用を重視しており、衝動性が高いことを示唆できる。

今回の研究では扱ったのは確率割引である。確率割引とは時間割引を応用して考えるもので、ギャンブルを行ったときに、当たるまでの待ち時間によって人々の報酬に対しての主観的な価値が割り引かれる、つまり不確実性を待ち時間に変換して考えるというのが確率割引である。

本研究の目的は、時間割引行動が変化するという先行研究(三国, 2011)をもとに、確率割引でも同様のことが起こるかどうかを検証してみる。この先行研究(三国, 2011)では、無数にある状況・環境の要因の中から周囲の「色」に限定して実験した。色は周囲の状況に大きな影響をもたらす。仮説は、背景色が赤いときのほうが時間を長いと知覚させてしまう(Gerald et al, 2004)なら、同じように時間割引の考え方を応用している確率割引でも、背景色が赤いときのほうがギャンブルやくじ引きが当たるまでの待ち時間を長く捉える、つまり報酬の価値を大きく割り引いて考えるだろうということである。本研究では質問紙での調査を実施した。

確率割引課題でのフィッティングの結果及び、待ち時間知覚課題の分析の結果、背景色による違いはほとんどなかった。しかし先行研究(三国, 2011)の時間割引の報酬課題では q 指数関数の背景赤白条件の比較において、背景赤条件のほうが割引が大きいという結果がでている。時間割引では背景による違いが出るが、確率割引では出なかったということは、時間の知覚の仕方と、確率の知覚の仕方に違いがあるということだろう。

AUC の背景色の比較では、割引課題では数値だけを見れば、報酬課題と損失課題の両方とも背景白条件の AUC のほうが背景赤条件の AUC よりも小さかった。つまり背景白条件のほうが割引が大きいということになる。しかし対応のある t 検定によると背景色間で AUC に有意差は見られなかった。また待ち時間知覚課題では、背景赤条件でのみ、報酬と損失の間に有意差(報酬 AUC > 損失 AUC)とともに有意な正の相関があった。つまり報酬が当たるまでの待ち時間を損失が生じるまでの待ち時間よりも長く知覚していて、かつ報酬が当たるまでの長さを長く知覚している人ほど、損失が生じるまでの時間を長く知覚しているということである。このことは背景が赤いとき時間知覚の結果が報酬か損失かにかかわらず、同様の心理プロセスを介している結果だと言えるだろう。